

認知症パートナー講座について

1. 経緯

本市における認知症サポーター養成講座受講者は令和元年度末には9万人を超えると見込んでいる。国では新オレンジプランの改訂に伴い、今後は認知症サポーターを養成するだけでなく、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりを推進するために、さまざまな場面で活躍してもらえる人を「育成」することにも重点を置く方向性を示している。

仙台市では平成30年7月から認知症当事者・家族・医師・専門職などを委員としたワーキングを組織し、従来からある「認知症サポーター養成講座」のステップアップという位置付けの「(仮称)認知症サポーターステップアップ講座」を開催するための話し合いを始めた。計4回のワーキングを通して、認知症の人の気持ちに寄り添えるパートナーを養成するための講座として、「認知症パートナー講座」と名称を変更し、内容を検討していった。テキストもテキスト作成ワーキングを立ち上げ、独自の物を作成した。検討の過程で「認知症パートナー」を浸透させていくため「認知症サポーター養成講座」のステップアップ講座とは位置づけず、並列の講座としてどちらを先に受講しても良いとした。

2. 認知症サポーター養成講座との位置づけ

	認知症パートナー講座	認知症サポーター養成講座
特 徴	<p>病気から人を見るのではなく、目の前にいる認知症のその人自身に目を向けることを目的とする講座。認知症の人の視点から、認知症の人が何を望むのか、どうしたいのか想いや声を聴くことを重視する。自分が「パートナー」として出来ること・関わられることを具体的に考える。</p> <p>本人視点をより明確化し、本人・家族の声を聴くことが特徴。</p>	<p>認知症について正しく理解し、地域や職場で認知症の人やその家族を支援するためにはどうしたら良いかを考える講座。認知症について初めて学ぶ方も多ことから、基本的な知識や病態に応じた対応などが主な内容となっている。</p> <p>地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けし、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組む「認知症サポーター」を養成。</p>
所要時間	概ね 180分	60分～90分
実施根拠	仙台市独自事業	国要綱
対象者	誰でも	誰でも
修了時	—	オレンジリング受領

3. 今年度の取り組み状況

(1) パートナー講座の実施状況

- ・認知症パートナー講座

第一回	日 時	令和元年 8月6日 火曜日 13時30分～16時30分
	参加者	79名
	場 所	仙台市シルバーセンター
	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク① (自分が認知症と診断されたらどう感じるか) ・認知症当事者から講話：当事者2名 (本人から認知症と診断された時の気持ちや今の想いを聞く座談会) ・グループワーク② (理想のパートナー像やパートナーとしてどんな関わりがしたいか 意見交換) ・家族・パートナーから講話：みはるの杜診療所 石原先生 (パートナーとしての関わりについて聞く座談会) ・仙台市の社会資源と認知症パートナーの活躍場所 (市内の社会資源やボランティアセンターを紹介)
第二回	日 時	令和2年 2月28日 金曜日 13時30分～16時30分
	参加者	
	場 所	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催中止
	内 容	

- ・若林区、泉区保健福祉センター等でもパートナー講座の要素を含む講座を実施している。

(2) 認知症パートナー講座指導者養成研修（キャラバン・メイトスキルアップ研修）の実施

認知症パートナー講座の講師となる指導者養成を目的とした「認知症パートナー講座指導者養成研修」（キャラバン・メイトスキルアップ研修）を開催した。地域包括支援センター職員、認知症介護指導者を中心に53名が受講し認知症当事者からの講話や泉区認知症サポーター・ステップアップ講座の中心メンバーの成功体験を元に話し合うグループワーク等を通して、パートナー講座について理解を深めた。

日 時	令和元年 12月6日 金曜日 13時30分～16時30分
参加者	53名
場 所	仙台市シルバーセンター

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症当事者インタビュー：みはるの杜診療所 石原先生、当事者1名 (本人の経験、診断された時の気持ち、自らの症状、周りの人に望むことを聴く) ・ グループワーク① (当事者の話を聞き自分にどんな変化が起きたか、次に認知症の人と話す機会があった時、どのような話し方をするか、グループ内でシェア) ・ グループワーク② (自分の認知症の人との関わりで上手く交流できたエピソードをグループ内で共有) ・ 成功体験の共有：みはるの杜診療所 石原先生 (泉区で開催された認知症サポーターステップアップ研修について、主催した包括担当者、泉区職員をゲストとして開催のきっかけやテーマ、役割分担や費用などを参加者で共有) ・ グループワーク③ (自分の仕事の時間の15%を使えらしたら何ができるか意見交換)
-----	---

(3) 課題

「180分という講座が長い」といった意見や講師となる当事者を地域で見つけにくい、当事者やパートナーへの謝礼の準備が難しいなど、地域での開催には工夫が必要との声も多かった。

4. 今後の取組みについて

認知症パートナー講座は最終的には認知症サポーター養成講座と同様に地域からの要請や地域包括支援センター等の働きかけにより、各地域で開催できるようにしたいと考えている。今年度、若林区や泉区等では複数の包括が連携し、そこへ区の職員が協力するといった形で地域のパートナー講座を開催・成功させており、これらをモデルケースとして各地域へ広げていきたい。